オーディオ実験室収載

OTTAVA f SC-C70 の活用(6)
―専用台の設置―

１．はじめに

前報(1)において SC-C70 用に手作りのインシュレーターを敷いたことを報告しました。今回は、専用台の効果とその入手までの暫定的な処置を行った結果の報告です。

２．OTTAVA f SC-C70 の試聴方法

専用台の応募をしているのですが、入手に手間取っていますので、まず、暫定的に種々検討を加えてみました

ありあわせの板を調達し、その板の下にアクションパッドを挟み、板の上に手作りのインシュレーターを敷いて SC-C70 を載せます。

花瓶台の足の下にもアクションパッドを挟みます。

専用台が入手できた後は、次のように設置条件を替えました。

① 板と専用台を交換

② 手作りのインシュレーターはそのまま使用

③ 専用台に付属のグリップシートはアクションパッドとセットで使用し、専用台と花瓶台の間に挟む。

④ 花瓶台の下のアクションパッドは耐荷重がないため、ハネナイトに交換

３．OTTAVA f SC-C70 の試聴結果

ありあわせの板の上に載せた暫定処置により、オーケストラの音の濁りが減り、花瓶台や、さらには床の振動が軽減されます。Space Tune を動作させて測定しますと低域が盛り上がっており、花瓶台を通じて床までエネルギーが分散されていたことが抑制されたことが分ります。この補正を働かせた結果、すっきりとしてディテールの再現と楽器の質感が向上しました。

専用台の設置の後、再び Space Tune の測定を行いますと、暫定処置の時よりさらに低域が盛り上がってきていますので、フラットに近づけるよう補正します。

ありあわせの板の上に載せた暫定処置に比べて、さらにオーケストラの音の濁りが減り、ソロ楽器のニュアンスも明瞭になってきています。この状態でもベルリンフィルディジタルコンサートのようなスケール感は無理ですが、楽器の数が少ないアンサンブルやボーカルものはクリアーで伸び伸びした音になってきています。

４．まとめ

SC-C70 はサブウーファーが底面についていることにより、設置の仕方で音が変わり、専用台を使用することやインシュレーターの使用が有効であることが分りました。このように SC-C70 は専用台、もしくはしっかりしたオーディオ用ボードを使用しないと真価が発揮できません。

以上